

エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションへの日本人専門家参加の概要

参加する専門家：国立感染症研究所 感染症疫学センター
山岸 拓也（やまぎし たくや）医師

訪問予定先： シエラレオネ

参加期間：平成 27 年 3 月 15 日～平成 27 年 4 月 25 日（約 6 週間）

目的：エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションに専門家として参加し、現地のエボラ出血熱に関する疫学調査を行う。

日本における WHO ミッションへの日本人専門家派遣の実績：

平成 12 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、3 回にわたり計 5 人(延べ 6 人)の専門家が派遣されています。

平成 24 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、1 名の専門家が派遣されています。

平成 26 年度は、今回の山岸医師、下島博士、谷口博士 3 氏の派遣により、WHO ミッションに参加する日本人専門家は延べ 17 名になります。

参考（厚生労働省検疫所ホームページ）：

・エボラ出血熱

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name48.html>